

会派行政視察報告書

令和 2年10月15日

長浜市議会議長 様

長浜市議会

会派 新政会 吉田 豊



私が出席した行政視察の結果について報告します。

記

- 1、視察等名 令和2年度 会派 新政会 行政視察研修
- 2、視察期間 令和2年 10月8日(木)～10月9日(金)
- 3、視察場所及び目的
 - ① 新潟県妙高市 NBファームアグリ事業部
「ミスト栽培による6次産業」について
 - ② 新潟県新発田市 新発田駅前複合施設(イクネスしばた)
「駅前複合施設の運営と機能」について
- 4、調査内容感想等
 - ① 新潟県妙高市 NBファームアグリ事業部
「ミスト栽培による6次産業」について

新潟県は、6次産業化を「はじめる」方から「ひろげる」方まで取組段階に応じてサポート体制をしっかりとっている県です。

その中で妙高市のミスト栽培による6次産業の取り組みを視察しました。ミスト栽培とは、化学合成農薬を使わない、人体に安全な農作物を生産するために開発された画期的な農法のことです。

有機堆肥を敷き詰めたパレットを棚上に並べ、棚下を密閉し植物を栽培します。植物の根はパレット底部のメッシュを通して棚下の密閉空間に繁茂します。ここへ液肥をミスト化し根に噴霧します。

この農法はさまざまな野菜・穀類・根物・茶樹・果樹栽培に応用するこ

とができます。

人体に害を及ぼす化学合成農薬を使用せず、安全で安心な農作物を高品質かつ大量に収穫可能な21世紀・未来型の農業技術とされています。

今回、株式会社 野本組アグリ事業部 NB ファームを訪れ、総括管理をされている市村宏之氏にご教示、ご案内を頂いた。

事業母体である株式会社野本組は建設会社ですが、業界が公共事業の消滅に伴い非常に厳しい環境にあったことから、将来展望を勘案し新規事業の取り組みを急務と考え、各部門より人材を起用し新規事業プロジェクトチームを発足。

そこで農薬を一切使用しないミスト栽培の大葉栽培に出会い「食の安全安心を妙高から発信する」を会社理念に揚げ、株式会社 NB ファームを設立したとのこと。

他業界からの参入の為、東京の環境ビジネススクールに参加されたことでミスト農法に取り組んでいる株式会社オーツーコーポレーションと出会われ、伊豆大島の試験棟を見学し、検討に入られました。

さらに、会社の新規プロジェクトチームで茨城県のミスト農法に取り組んでいる大葉農家を見学され、事業化計画の検討に入られる。

ここでの検討・決定が6次産業としての確立につながったと考えられます。それはミスト栽培の農業技術指導を株式会社オーツーコーポレーションが、栽培を株式会社 NB ファーム（野本組、アグリ事業部）、そして販売を株式会社ヴォークス・トレーディングに全買取りというシステムを確立したことであります。6次産業の中で、それぞれの立場における専門的分野の知識・ネットワークを活かし、地元としては、栽培に集中して努力された事が結果を生み出したと思います。

苦労された点としては、栽培面では技術指導を受けられて苗は順調に生育したが、収穫者が全員素人であったことから、収穫、苗の仕立てに苦労したとのこと。

又、資金調達の段階で、実績が無いとの事で、補助金や農林漁業金融公庫の融資が受けられなかったことだという。

国等の資金制度をうまく活用出来なかったのには疑問が残った。

農業振興への6次産業化は、農業等の一次産業と加工などの2次産業、さらにはサービスや販売等の3次産業の一体化したマッチングと体系的なシステムを確立することが重要と感じさせられた。

② 新潟県新発田市 新発田駅前複合施設（イクネスしばた）

「駅前複合施設の運営と機能」について

新発田市は人口 96,615 人、面積 533.11 km²で産業は農業を中心に縫製業、酒造や漬物、米菓等の食品工業が盛んです。

又、道路網が整備され工業団地の造成を行い、企業誘致を重ねています市内には 6 校の高等学校と大学や短期大学があり、学園都市としても定着しつつあります。平成 29 年 1 月に市制施行 70 周年を迎えられまちの顔として駅前複合施設「イクネスしばた」を整備され「住みよいまち日本一・健康田園文化都市しばた」を将来都市像に揚げ、取り組まれています。

今回、えきまち長浜をさらに機能強化できるアイデア等を視察目的に学ばして頂いた。

新発田市は、平成 12 年に中心市街地活性化基本計画を策定し、平成 15 年から土地区画整備事業を行い、県立病院を駅前に移転開院された。

平成 25 年度に中心市街地活性化基本計画を改計し、中心市街地の入口である駅前として賑わいと活気のある都市機能及び商業の拠点づくりとして取り組むため「情報発信ゾーン」「公共サービスゾーン」「歴史・文化ゾーン」の 3 つのゾーンを設け、それぞれの核となる施設整備を行うことで中心市街地の活性化を図るとしている。その経過とコンセプトも長浜市と似ていると思われる。新発田駅前を「情報発信ゾーン」と位置づけ、子育て支援施設などの整備を併せて行い、図書館を触媒として

「ひとをつなぐ」「まちをつなぐ」「活動をつなぐ」複合施設を駅前複合施設「イクネスしばた」として整備建設されました。

又、隣接の民間所有地においては、民間業者が複合ビルを建設し、入居する観光案内所、商業、医療、学生寮等の機能と相乗効果による利便性の高い駅前エリアとなっています。

建物は全面ガラス張りで、外からも内からも見通しが良く、入りやすい外観になっています。1F は雑誌や中高生向けの図書が並び、カフェや多目的室、音楽練習室などが配置されたカジュアルなフロアです。2F は児童図書や料理、観光、県内資料などテーマ毎にまとめた図書が置かれ広大な、こどもセンター、キッチンスタジオ、展示室等が施設と組み合わせあって並び、子供から大人まで幅広い世代の人々が集うフロアです。3F は調査研究や学習、読書ができる静かな開架閲覧のフロアです。

これからの施設の機能、設置の考え方、コンセプトがそれぞれしっかりと工夫されているのが印象的でした。

たとえば図書館は「歴史書館」と「一般書館」に分けて、前者は地域の知的創造の分野で戦略的に活用できる工夫を、後者は行きやすく、わかりやすい場所として、情報提供拠点機能として最大限生かす様にされている。音楽練習室の側には、音楽雑誌や専門書が置かれているし、キッチンスタジオの回りには料理関係本が並べられているのが良い例であった。観光案内所においては、観光案内だけでなく、着地型施行企画受付観光ガイド、ホテル等の手配などワンストップでできるインフォメーション機能や土産品ディスプレイ、実演販売、イベントスペース等を配置することで、観光案内所を拠点に観光客の市内回遊を促進するとともに市民交流の場所としても使われる様にされていた。

長浜におけるえきまちテラスにも、この様な機能が必要であり、この様な考え方、コンセプトが相乗効果を発揮すると考える